

<イチジク>

- ・「おおさかアグリメール」で配信している、年間の主な作業を掲載しています。（気候条件等で前後することがあります。生育状況に応じて管理してください。）
- ・病害虫の発生は栽培ほ場の状況を良く観察し、毎月の病害虫発生情報は <https://www.pref.osaka.lg.jp/ol20090/nosei/byogaicyu/index.html> を参照してください。
- ・防除薬剤は『大阪府農作物病害虫防除指針 https://www.pref.osaka.lg.jp/ol20090/nosei/byogaicyu/boujo_shishin.html』を参照してください。

月	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
露地				霜害対策			病害虫防除	かん水		芽かき	マルチ被覆		新梢管理		病害虫防除	湿害対策	病害虫防除		摘芯	病害虫防除	かん水追肥	病害虫防除	追肥		追肥					土づくり	元肥					
管理作業				【霜害対策】 ▼1、2年生の幼木や、一文字整枝の場合は5月上旬頃までは晩霜害を受けやすいので、稲わらを巻くなどして保護しましょう。			【病害虫防除】 ▼根にこぶが発生し、樹が弱っている場合はネコブセンチュウ対策を行います。	【かん水】 ▼根の活動が始まります。乾燥している場合は、ワラが湿る程度にかん水をしましょう。		【芽かき】 ▼展葉2、3枚の頃に約40cm間隔で1芽が残る程度に、上向きや下向きに出ている芽や混み合った部分をかきます。 ▼特に上向きの芽は勢いが強くなるので、早めに芽かきをしましょう。 ▼早く出過ぎた芽、遅れて出た芽もかきましょう。 ▼芽かきは一度にせず、2、3回に分けて実施します。最終的には1樹あたり25本（10aあたり2500本）程度の新梢本数が目標です。	【マルチ被覆】 ▼うねの上部には敷きワラを行い、すそはマルチを被覆しましょう。雨滴の跳ね返りを防ぎ、疫病や雑草の発生をおさえるのに効果的です。		【新梢管理】 ▼新梢が40cm程度伸びた頃から始め、樹勢の弱い木や主枝先端の新梢は早めに、できるだけ垂直に誘引しましょう。 ▼樹勢が強い木や主枝基部付近の新梢は、誘引する時期を遅らせ角度も緩やかに誘引します。 ▼枝が混んでいる場合は、徒長枝や弱い枝を中心に取り除きましょう。	【病害虫防除】 ▼アザミウマ類の発生ピークは5月下旬から6月中旬です。果実の横経が25ミリ程度になると開口部が開き、果実内部にアザミウマ類が侵入します。 ▼5月中旬までに園周辺部の除草を徹底し、薬剤防除とともに赤色ネットや光乱反射シートなどを組み合わせると効果的です。		【湿害対策】 ▼ほ場の排水を良くして、うね間に長期間水が溜まらないよう注意しましょう。	【病害虫防除】 ▼疫病は主に果実に発生し、葉や枝等にも発生しますので、伝染源となる病葉や病果を園外に持ち出し、マルチをして雨滴の跳ね返りを防ぎましょう。 ▼ハダニ類、アザミウマ類の発生に注意し、カミキリムシは見つけ次第捕殺しましょう。		【摘芯】 ▼20段以上の未展葉の部分の摘み取ります。先端に発生した副梢は2、3葉を残して再摘芯し、残りの副梢はかき取りましょう。	【病害虫防除】 ▼株枯病の発病樹は見つけ次第、根まで掘上げて処分して下さい。 ▼ハダニ類は梅雨明けから発生し、8月中旬頃ピークとなり9月頃まで発生します。園内の通風をよくし、早期発見に努めましょう。	【追肥】 梅雨明け後樹勢を観察しながら、チッソ2kg、カリ22gを化成肥料で追肥しましょう。	【かん水】 ▼一度に多量のかん水は裂果の原因となります。		【収穫】 ▼果実はやや下垂し、全体に赤味がかった褐色となった成熟果を収穫し、早取りは避けましょう。		【病害虫防除】 ▼黒かび病、ハダニ類、ショウジョウバエ類に注意しましょう。 ▼発病した果実は新たな病気の発生源となります。必ず園外に持ち出しましょう。 ▼台風等で強風を受けた後は、さび病の発生にも注意しましょう。	【追肥】 ▼8月中下旬に樹勢や成熟果の光沢を観察しながら、10a当たりそれぞれ成分量でチッソ3kg、カリ3kgを化成肥料で施用しましょう。	▼収穫期に窒素を効かせすぎると、着色不良となります。肥切れしない程度に施用しましょう。				【土づくり】 ▼望ましい土壌酸度は、pH6.5-7.2です。他の果樹に比べてカルシウムをよく吸収しますので、必ず石灰を施しましょう。 ▼施肥量は土壌の酸性度によって異なりますが、苦土石灰では10a当たり150-200kg程度を目安とします。		【元肥】 ▼元肥は12-1月に肥料効果の長い有機質肥料中心に施します。 ▼施用例は10a当たり成分量で窒素8kg-リン酸13kg-カリ8kgです。 ▼いちじくは根が浅い性質があるため、水田跡のほ場など上根が多くなっている場合は、一度に多量の肥料を施すと濃度障害により根を傷めることがあります。 ▼肥料は点まきや筋まきではなく、うねの全面にうすく施しましょう。		